

はじめに 建物とコレクション

後期新古典主義建物

1838年に建築家ファン・ダウラは売却された聖フランシスコ修道院の一部を改修し、当美術館の後期新古典主義建物をデザインしました。正門は以前修道院の畑があったミナ広場に面しています。

1852年

美術アカデミーは委員を派遣し、州美術館を創設しました。コレクションには政治家メンディサバルが行った永代所有財産の解放で回収した美術品が集められました。

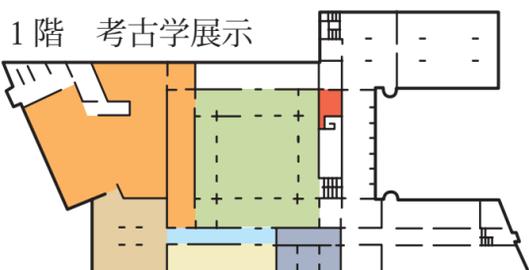
1887年

この年発見された男性用石棺は考古学研究にとって大発見となりました。また、このことがきっかけで考古学博物館創設の動きが高まりました。この石棺発見後もカディスでの発掘作業によって現在の美術館のコレクションは増え続けています。特に近年の研究が多くなる寄与をもたらしたことは言うまでもありません。

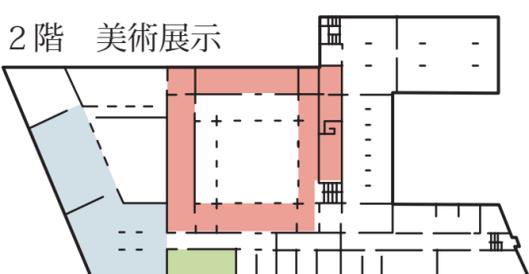
1970年

両美術館が合併し現在のカディス美術館となりました。その後1980年に活動方針が立てられ、国内の美術館としては初めて大規模の改修が行われました。以降、館内の配置はパティオを中心に1階部分には考古学展示、2階は美術展示、3階は民俗学および現代美術展示となっています。

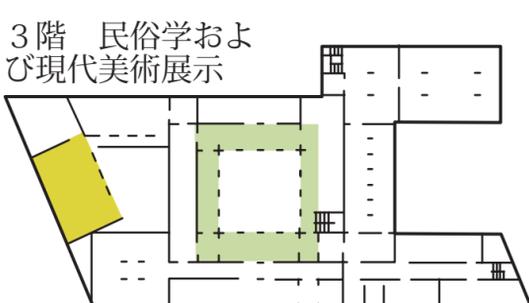
快適に鑑賞することができるだけでなく、いくつかの重要な作品を含む展示品は美術的にも素晴らしいものばかりで、それらを通じて特に紀元前8世紀から紀元後3世紀までの町と州の様子を探ることができます。



- エントランスホール
- 展示室1 先史時代
- 展示室2 植民地時代
- 展示室3-7 ローマ時代
- 展示室8 中世 近代 現代
- 中庭美術展示



- 展示室6 古銭標本室
- 展示室1-4 16-18世紀
- 展示室5-7 19-20世紀



- 「ティア・ノリカ」のマリオネット
- 現代美術展示

写真：カルメン・ロメロ/ギジェルモ・メンド

旧考古学博物館と旧州立美術館の2つの美術館はそれぞれのコレクションを持ち独立して活動していましたが、1970年に国内美術館協会によって統合され、現在のカディス美術館となりました。

考古学博物館は1887年のフェニキア人の石棺の発見後創設されました。この発見はカディス美術館にとって大発見だけでなく、考古学研究にとっても大きな動機付けとなりました。この石棺発見後もカディスでの発掘作業によって現在の美術館のコレクションは増え続けています。特に近年の研究が多くなる寄与をもたらしたことは言うまでもありません。

統合された2つの美術館は、1980年以降活動計画に取り組み、美術館全体の大規模改修がなされました。当時こうした活動計画が出されたのは国内の美術館では初めてのことで、後のモデルとなりました。

展示品の配置は中庭を中心として1階には考古学展示、2階には美術展示および古銭展示、そして3階には民俗学展示となっています。さらに3階の一部を現代美術展示にする計画が進んでいます。

展示は快適、教育的で分かりやすい展示になるよう配慮されています。作品は訪れる人が飽きることはないよう選び抜かれています。解説は簡略で分かりやすいものから、専門的なもの、博学的なものといくつかのレベルに分かれています。快適に鑑賞することができるだけでなく、いくつかの重要な作品を含む展示品は美術的にも素晴らしいものばかりで、それらを通じて特に紀元前8世紀から紀元後3世紀までの町と州の様子を探ることができます。

配置

1階 考古学展示

展示室1

展示室1には先史時代の埋葬用具と、人々が使用していた道具類が展示してあります。カディス州には旧石器時代から青銅器時代まで絶えず人々が暮らしていたことがわかっています。ドルメン・デ・アルペリテで発見されたものには新石器時代の道具やベティエロの偶像がある他、石に彫られた混色用パレットのようにとっても興味深いものもあります。またベナオカスの下部地殻で発見された新石器時代の道具や、サンルカル・デ・パラメダの偶像のような銅器時代の道具などがあります。



展示室2

ここでは植民地時代、特にフェニキア人の支配下にあった時代を中心としたカディス美術館の最も壮麗なコレクションが展示してあります。1887年の男性用石棺発見に続き1980年には女性用の石棺が発見されました。この石棺は作業の精巧さと優美さ、表現された人物が放つ落ち着きと荘厳さにおいて、さらに感銘を与えるものと言えるでしょう。他にもサンクティ・ペトゥ

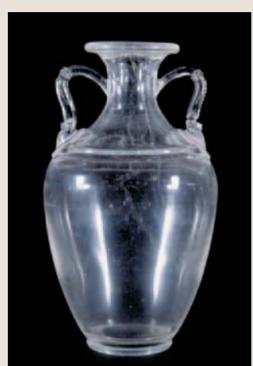
フェニキア人の石棺
カディス 紀元前5世紀
大理石



キア人に関するコレクション中で最も重要なもののひとつです。ローマ人に関する展示室では当時ローマ人の都市であったガデスとその埋葬地での出土品を中心に、バエロ・クラウディアやカルティア、現在のメディナ・シドニアにあった都市などで発見されたものを展示しています。

展示室3

ガデスでの出土品が展示してあるこの展示室には、都市の重要な建物の一部であったと思われる柱、マルシアスのモザイク、戦闘服を着た皇帝の青銅像、灯台を象ったグラファイト、水道橋の一部の他、ガラスケースの中にはローマ人が家で



水差し
カディス 1世紀
クォーツ

使用していた道具と、劇場で発見されたものやそれに関するものが展示されています。展示室の半分はローマ人埋葬地の出土品である土葬と火葬二種類の墓や葬祭用具、碑文などが占めています。これらは現在のカディス州、特に州都で発見されました。また、近年クォーツでできた家財道具とともに発見された火葬用の墓は美術的にも素晴らしく、大変に貴重であるという点でも傑出しています。



戦闘服の皇帝像

展示室4

ここではローマ期の彫像が展示してあります。バエロで発見されたトラヤヌス帝像の頭部はローマで作られ、法服を着用した胴部分はバエロで作られたものと思われま。もうひとつの重要な展示品であるハドリアヌス帝像はサンクティ・ペトゥリで発見されました。



トラヤヌス帝像
バエロ・クラウディア (ボローニャ) カディス 1-2世紀
大理石

展示室5

この展示室では商業がテーマで、様々なタイプの大型壺や物の運搬に使用した道具などの展示があります。



インス寺院の奉納用飾り板
(バエロ・クラウディア)

展示室6-7

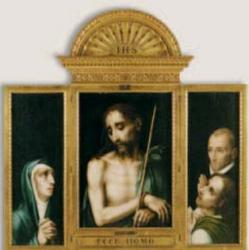
第6展示室はバエロ・クラウディアの展示に当てられています。ここでは都市の地図の他に劇場を飾っていた2つの大理石像や、様々な場所で行われた発掘で見つかった道具を見るすることができます。展示室7では州とカルティア、カリッサ・アウレリア、カリッサ・アウレリアのような町で出土したものを展示しています。中でもトラヤヌス帝の台座、トリトンのモザイク、原始キリスト教時代の石棺、救済条約文書が注目を集めます。

2階 美術展示

展示室1

当美術館は国営美術館を除けば美術展示品において国内有

数です。展示品を通して16世紀から20世紀までのスペイン絵画の推移を見ることができます。展示室1には16世紀のキャンバスまたは板に描かれた絵画を展示しています。中でも素晴らしいものを見、「エック・オモ（この人を見よ）」の場面を描いたモラーレスの三連祭壇画です。その他アレホ・フェルナンデスとペドロ・デ・カンパーニャの作品も見逃すことができません。



三連祭壇画「イバラの冠をいだいたキリスト、悲しみの聖母マリア、使徒ヨハネと寄贈者」
ルイス・デ・モラーレス



「キリストの荆冠」
アレホ・フェルナンデス

展示室2

ここではスルバランのコレクションが展示してあります。これらの大部分がヘレスのカルトウジオ会修道院から持ち寄られたものです。コレクションの中には等身大とほぼ同じ大きさのカルトウジオ会修道士を描いたシリーズがあり、これらの絵は至聖所に続く廊下に飾られていました。この展示室ではスルバランの手から生み出された最も想像力に富み感興のある傑作を鑑賞することができます。特に「聖ルーノ」、「ベアト・ファン・デ・ホーント」、「香炉を持つ天使」は傑出しています。



写真：ハイサヘス・エスバニョレス(paisajes españoles)

公共交通機関
市内バス1、2、3、5番

タクシー乗り場：聖アントニオ広場
またはスペイン広場

駅（鉄道）：カディス駅（セビージャ広場）

バスセンター：コムス交通（イスパニダ広場）

車
最寄りのパーキング
聖アントニオ広場

カディス美術館
museocadiz.coul@juntadeandalucia.es
www.museosdeandalucia.es/cultura/museocadiz
www.museosdeandalucia.es

ミナ広場（番号なし）11004 カディス
運営局：956 20 33 68 / 956 20 33 77
インフォメーションおよび団体の予約：956 20 33 71
電話：ストア 956 22 42 65
ファックス：956 20 33 81



アクセス



「香炉を持つ天使」
スルバラン



「聖ブルーノ」
スルバラン



「ベアト・ファン・デ・ホートン」
スルバラン



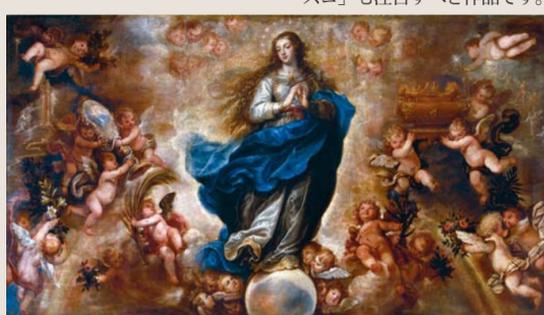
「香炉を持つ天使」
スルバラン

展示室3

リッツィの「無原罪の御宿り」を含めたスペインバロック美術最盛期の作品があります。ムリーリョ作の旧カディスカプチーノ修道院の祭壇画は特に興味深いものです。祭壇

画の中央には彼の最後の作品となった「聖カトリヌの神秘的結婚」が描かれています。この絵と祭壇画の未完成部分は弟子であったメネセス・オソリオによって完成されました。この他、頭部以外はムリーリョのアトリエによるものと思われる「聖フランシスコ」も注目すべき作品です。

「無原罪の御宿り」
リッツィ



展示室4

ヨーロッパのバロック画家、特にイタリア画家とフランドル画家の作品が中心です。イ

タリア人画家としてはルカ・ジョルダーノの作品やサンタフェーデの「十字架降下」が



風景スケッチ「ラ・パロサ」
フェリベ・アバルスサ

あります。中でも最も傑出しているのは銅板に描かれたルーベンスによる「聖家族」です。

ア・マルティン・デル・カンボが代表です。

展示室5

カディスの新古典主義絵画が展示してあります。作品は質も高く、商業及び文化の中心地であった都市が最も栄えた時期に一致します。ピクトリ

展示室7

20世紀半ばまでの作品が展示してあります。アバルスサ、ルイス・ルナ、プリエト、ゴドイのようなカディス出身の写実主義画家の作品以外にも、ベルエテやソローリャ、プラなどそれ以前の画家の作品があります。



「家族の肖像」
V.D.ベッケル



3階 民俗学および現代美術展示



「絵画」ミロ

シモン、リタ・モラ、ギジェルモ・ペレス・ビジャルタ、チェマ・コボの作品やラファエル・アルベルティによるデッサンなどを紹介しています。この数十年の間に作られたこれらの作品は多種多様なコレクションを見せてくれます。

展示室8

ミロのような今世紀の画家とともに、それぞれ異なる傾向とスタイルを持つコストウス、フリオ・フステ、ペドロ・

3階部分には近代のカディス風俗写生主義がよく表れている「ティア・ノリカ」のマリオネットを見ることができます。展示室内にはマリオネット、緞帳、舞台装置が展示してあります。作品が部分的に展示してある他、2つの最も古い代表的演目「クリスマス



「ティア・ノリカ」
カディス伝統人形劇
19-20世紀

の小宗教劇」と「ティア・ノリカ」は全場面が再現されています。「ティア・ノリカ」に関しては闘牛によるひと突きの場面、医者への訪問場面、ノリカの遺言の場面が再現されています。

この文化遺産は1978年に国によって購入され、保存と展示のために当美術館に寄託されました。劇の道具、緞帳、マリオネット、原稿、さらには入場券などが数多く保管されています。

お客様へ

数年前よりアンダルシア自治政府文化委員会はアンダルシア州にある美術館を新たな文化的、社会的需要に答えられる施設に変え、市民がより親しめるよう努力を続けています。

私たちに至ったかが美術、考古学、民俗学のそれぞれの展示から見えてきます。さらには将来私たちが願う姿も見えてくるかもしれません。



カディス美術館の正門

アルメリア美術館、アンダルシア写真センター、カディス美術館、コルドバ考古学博物館、グラナダ美術館、グラナダ考古学博物館、グラナダのロス・ティロスの家美術館、グラナダ美術館、ウエルバ美術館、ハエン美術館、リナレス考古学博物館、ウベダ考古学博物館、カソラのアルト・グアダルキビル民族博物館、マラガ美術館、アンダルシア現代美術センター、セビーリャ考古学博物館、セビーリャ民族博物館、セビーリャ美術館、ムリーリョの家美術館の19の機関が委員会によって運営され、互いに連携しています。

これらの施設のコレクションや活動を通じて、アンダルシアとその文化財をより深く知ることができます。私たちがどんなであったか、またどのようにして今の私たちに至ったかが美術、考古学、民俗学のそれぞれの展示から見えてきます。さらには将来私たちが願う姿も見えてくるかもしれません。

当美術館へお越しいただきましてありがとうございます。お楽しみいただければ幸いです。当美術館以外のアンダルシア州美術館へも是非おいください。州遺産に関心をお持ち頂きましたことに感謝申し上げますと同時に、今後とも皆様のご利用をお待ちしております。

ようこそ

これらの施設のコレクションや活動を通じて、アンダルシアとその文化財をより深く知ることができます。私たちがどんなであったか、またどのようにして今の

文化委員会



開館時間 一般
毎週月曜休館
火曜：14：30～20：30、水～土曜：09：00～20：30
日曜：09：00～14：30、祝日
開館日：09：00～14：30
祝日休刊日は電話またはホームページでご確認ください。

団体
最善のサービスでお迎えできるよう、事前に当美術館の教育文化活動課（DEAC）にご連絡いただくことをお勧めします。
お申し込みは電話（956 20 33 71）またはホームページ上の教育プログラム欄にある申込書で行うことができます。

お待ちしております。

カディス美術館

www.museosdeandalucia.es



美術館